

Inquiry Learning

先週は芸術鑑賞会が行われましたが、基本的に11月というのは大きな行事が少なく、一年の中で最も落ち着いた時期だと言えます。そんな時には、日頃の学習に精を出すのは勿論のこと、「読書の秋」や「芸術の秋」を決め込むのも良いと思います。さらに言うと、学習は学習でも、1・2年生の皆さんは、探究活動に力を注ぐチャンスでもあります。

この探究活動…文科省が、高校の総合的な「学習」の時間を、総合的な「探究」の時間と改定したのは、2022年(令和4年)のことです。しかし本校ではこれに5年先行し、2017年(平成29年)から探究活動をスタートさせています。

その背景には、本校がSSHに指定されているということがあります。まずそもそも、SSHとは何ぞや、というところから話すと…それは、端的に言うと、「将来国際的に活躍する科学技術人材を生み出すための“システム”を作り出す」ことを目的とした文科省の事業です。つまり、「〇〇すれば、優秀な科学技術人材が育成される」というシステムを文科省は構築したいのです。そして「〇〇すれば」に当たる仮説の検証のために予算を配当するということです。

で、本校の場合の「〇〇すれば」に当たる取組が、例えば様々なフィールドワークだったり、大学や専門機関との連携講座だったり、普通科のSSHコースだったり、分野融合型授業だったり…ということです。そしてさらにその一環として、理数分野における課題研究の手法を活かし、2017年から普通科の探究活動を開始したということです。

つまり、大きな括りで言うと、探究活動はSSHの目的、即ち「科学技術人材育成」に資する目的でスタートしたのです。しかしこんなことを言うと、「じゃあ文系にしか興味がない僕たち、私たち、には関係ない?」と思う人が出てくるかもしれません。

しかし…いやいや、そういうことはありません。いくらSSHの目的が「科学技術人材の育成」だとしても、本校の生徒が全員、或いは8割、9割、理系に進んでほしいなんてことは、まったくありません(私自身、文学部出身のバリバリ文系ですし…)。

ただ、理数科の課題研究の手法を普通科の生徒も体験しておくことで、皆さんの将来の方向性についてのヒントや動機づけになれば、という狙いがあります。逆に言うと、探究活動のような機会がなければ、単に教科の好き嫌い・得意苦手だけで進路を決めてしまう人が圧倒的に多くなってしまいます。

また、理系とか文系とか関係なく、探究活動で必要とされる力…他者と協働しながら、課題を見つけ、リサーチし、まとめ上げ、発表する力…は、これからの社会で不可欠な力ですので、それを今のうちに経験しておいてもらいたいということです。

改めてこのようなことを頭に入れた上で、発表に向けてラストスパートを！